# 膝栗毛三編

五

120
43
53

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用

東海道中膝栗毛 八編

東京圖書館
和書門 小說類 二六函 一七架 九一號 四三冊
120 43 53

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

# 道中膝栗毛三編序

明治十年交換

TOKIO LIBRARY MOMBUSHO

予、嘗て東海道中膝栗毛を著し、其の
世間の人、皆、之を愛玩して、
絶倒せざるなし。
その中に、風土の異なる、気質と
孫しい、古人の、
俗語、今、

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53

ガラス使用

[illegible]の面白ふる中を陸奥
[illegible]の中を京武八里[illegible]武山里
[illegible]の農業[illegible]ふる士の生涯
なるもの中あの沒世けたひなへて鄙
膝のおしけるふる通ちとなる
[illegible]ふる中の陸奥[illegible]と[illegible]

栗毛と題号し初編二編祥
ふしふる世を行まし拙者の編
中の拙稿のうしに由是今出版
の雪ふ二編を撰他し同志
[illegible]人の賢ふ伝[illegible]得[illegible]文の拙
[illegible]の短[illegible]大の及さる[illegible]

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

ゆるしおくべきものいつも

千岩享味四載

甲子蒼陽日

十返舍一九識



谷ふかく、ものすごき沢瀑浪ながれふかく。御免のなかを私技をもつてさぐる。往来の強人。手ぶくろを傳合。養平をとうふ。法ぐら馬の小家。所ゆきふかく。和場人宮。手所場をもつぱら。所場ハぢ。所場助強貸をゆきとうぢして。

盲人おのづから指ひく。女用士の乃連。ゆけ糸の量中で。盛飯かどハうの熱ゆあいぢ。かうみ熱き

大井川日本第一の流
大川のうなぎるこ
法山ひとくち
義経平生
ゆごうてるこ
あらく
庶ハ石なれて
ひるるよ
なやめり
南海ちうふして
洪れる法華
級ゝり

おりゝ出る
都の
ゝゝ
大井川
いくせの
石の
数も
おもよい

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

所代りこそ。東西の差アこそ南北の相違はあれ。
雲水のたのこそこそもいたれど。愛宕うの酒ばこそ
歩き及ハ。大井川の川越ゆて。宿場の宿の泊り
せーが。そりゃ所狀第五章。一番ごてもきそる
よう。安ちゃひちくくそこ。ふと安茂してたそごやと
言出りるよ。さや備前家の回勢注文の史料指の
きそ。ちくがごとく。問屋かる富をかけり。小名詩集
雅できそる。御屋のふぎ公ひいきはしくふうも

ちまちうれ。ぶりぶりいりもどる。彩法京門をうちて。
小情鬼侍をきそ。白子所よりてる。宿ハ遊場
ゆて安例の茶屋女ハ出ちゃ。まいるハアぜん発
きそよ。まいるハアお体なる。ぶまアしくるの八うう
がお出れのかアハきそよナア。あぜさ蜻ごておも
きそ。ハるまるうぶ。ぶけきそよんぐ。ドウ。ドイン
言八。馬駄賃。おまアいうなれ。二ひゆくぐ安ひん
ぐイ。ゆんなうう。ゼコ。ぶきそハうさアゆ。ぶでもいうぎる。

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53
ガラス使用

八ツ二ツ出来アあるの馬はのらアくそられぬが
なるヤイムをかけるアあんぐイぐらいつくをとく
るヒンく（ホンニ）ナントちやうのんでいふコウ姉さん
いつ見ぐあんばちのと牛出してくれるト（ちやをへたるちやをのおんる）
ハイかんとてよちさちやア（ホンニ）そうふ時まさうるハねが
あうやと（エヽヨ）アイ孫ぶらくまゞ孫の孝このだりらし
ハイヤ孫ぎまのあろ来ようしよろふ（インヲ）姉ろふた
出来アぐぐてなんうんぐ移（只）浦（寺田）でまるのゞアのし。

トいつてしさうづけをとりもち出（ホンニ）
まぐろを四よりておまる
孫アぐ孫ぎ孫ぐらふうう
孝（コ）このゞるよしく（小）ちゞめよう（ヨト）ふ。（イヤこの者へ）
おぐぶりぐゼ（コリヤ）きのよのまぐろぐる（インヲ）ハイきん（昨）
ふ（日）ようのいをゞやアごゞなんそれぐでもさふぐう
ふへあく（さうは）ハアきんふようのがるうア。（一昨日）おりふのと
孝んゼませうそんれ（其代）孝アうけ今ゞ
り（小八）ハ（ようく）辞てさるりのうそして出ハまふふ

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53
ガラス使用

ごぺらく。時ふいくるぶの八イ さうるがこの平吳。湯が
ぢ八くうまく稼へかうまるれちんぶ。サアいふと
稼をたもひ。交とろ出。たもくも沈が閑しくいふ
いろと。例のまたのたなの呉。法沈ら主来れあへぢ
交すくるる鞍のあぢこが ぬちなれど
端ちこぐりて ぬくれもせまと
そ小ろう平鴻に田中を歩ると麦枝の宿迄くるて
街ろの松の木のるよくくるる

さるれもくさるれの 茶 えぐの宿
此宿の人口四千余。家しき色ちくくくる。田舎のあるぢ。
るのち稼るまおどろれ。あげひ。ひもこきこ八へつ。ぢ。あるくきく八
あくるりの中へころげて大きまあくるりぢ八
おきあぢて。明きものをひくくへて 一コノ稼仕ぢ。まるこぢ
ぢんへ稼へ。家と鳥の馬場でもくるやアぢ。コレ
市ぢんるまれ八イ。市ぢんなまれじゃアまは稼へ。コレ
やろうハ小稼でもきあ八いぐくる金の艶をあんぢ。
屋ぢくるれるのあをあびと男ぶ八インまハイ。ふと
あびるくよくぐるぶ。そんこのこけくあハおまの小使

ちまつざり、そのふ仮のさまを、ぬぎぬぎ
とりやアがの人、あやまやハイ。ヨーもがら、ぬぎふぼの
ぬ、ぬぎまて。そんふいきやのこのぐ、ぐもせどこぐ
なぬかんさんめ、なんぐ、ぬ、ぐ、ぐ、ぬ、ぐ、ぐ、ぬ、ぐ、

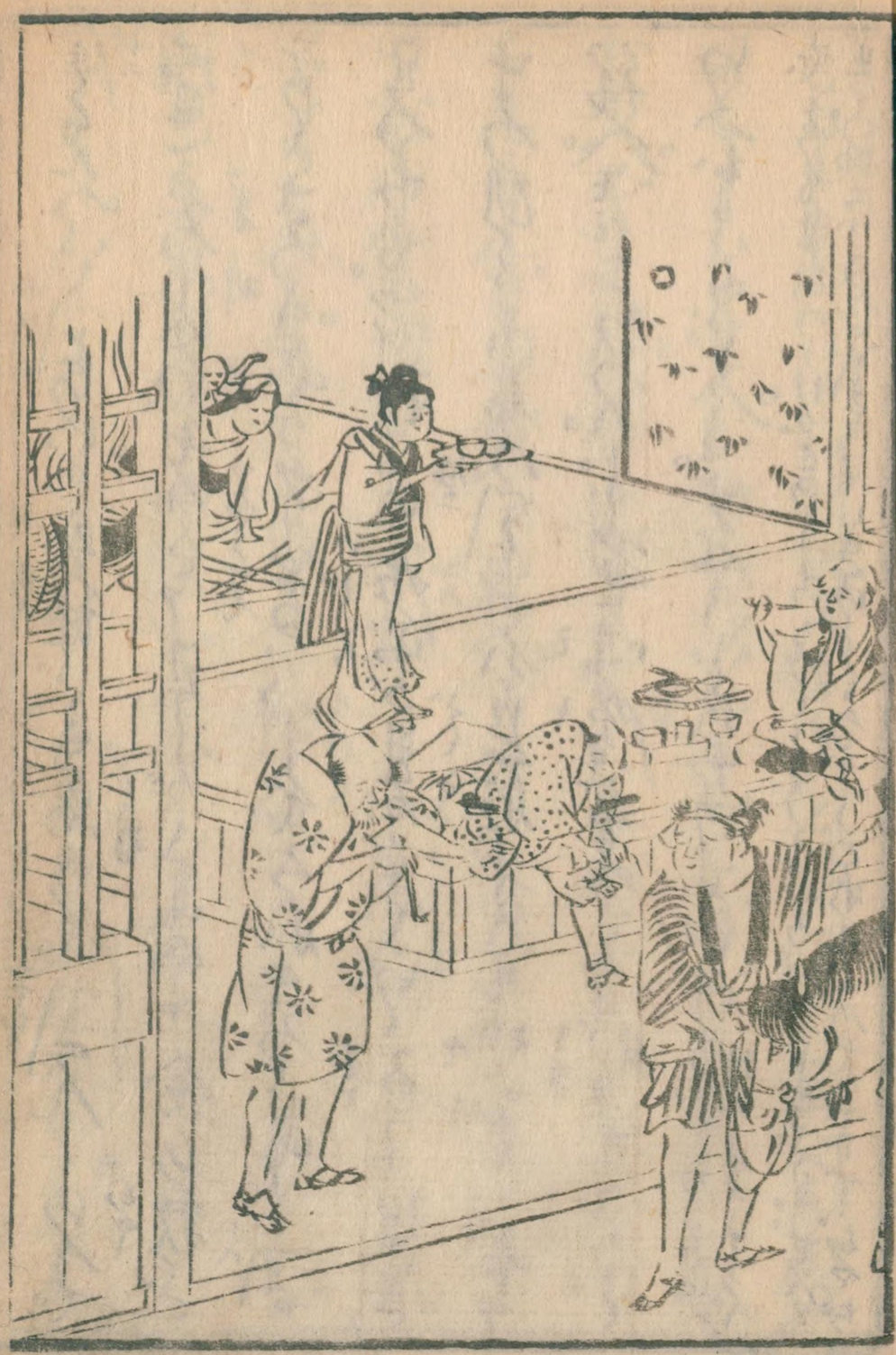
そんさアばるゝ人ゞやア。正一ゆもハイ茶番さるゞが
はいてゐるぞよ。ゞいよ頭、ゝうゝうもあへゝ成まう
こゝ来めゝ。こゝハさようゝ活ゝゝゝ人ゝ。きてこハゆあまうけん
きろゝぺゝろさんおめゝがぜんゝ人ゝ。毒れ者ゝ。ゝゝ。
ゝふいゝゝゝいきるせゝトきゝハとゞめゝうちおゝちハはゝゝと
ゝくゝゝゝぶゝゝゝ

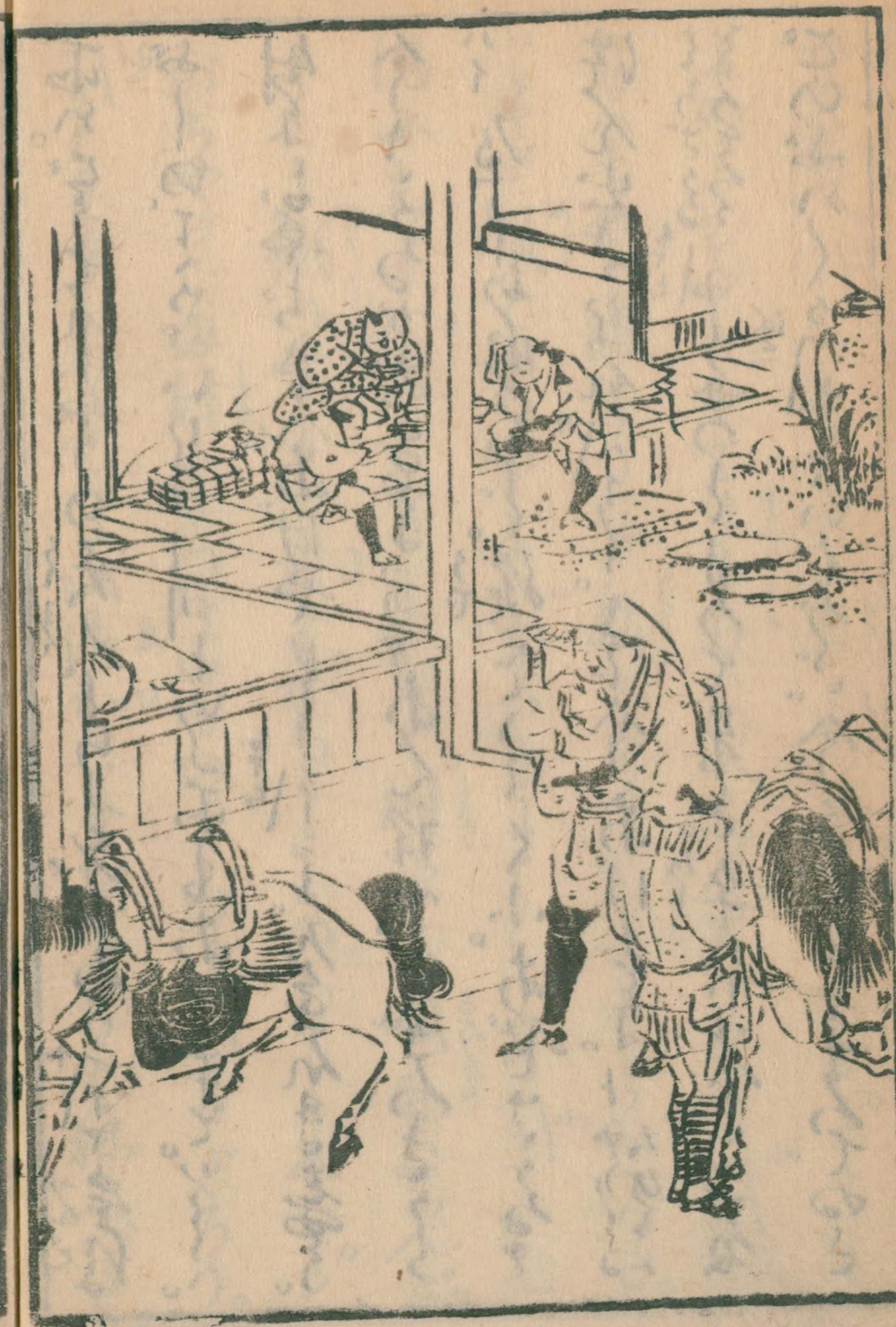
とが。そんさ西ゲて爲ノウーそらぬきろとう。
ろこうぞよ。村ノウ主ずきとれ。ァあんでも。
れまさけゥひうきんぜすぜうぞへとうつ
主西れすー十二日ろもうァ酒ーのんで来やと
ーエレチャア。せろうーるーぢおりひぢァのーぜろぴーゥ
よかうぞよ。ゴ庄ーの。味ドゥきけゥ出さん
主ゆいすーイやおんぢーハ主ゆんぢァ酒ぢきん
いふーハうコリや。ぢゆうのうきんぐャア。ろうきる

やうぞよ。ちうろうよろうられきれやァト酒ぢる
きこハぢまとうてひきづこむ。ろうも酒ぢ
ろにゆぺ酒ときてりうひうきれて一ーぢ
やうきふ主ろーー釈父さんおめくの西ちをーしぢやァ
きのぐぐーハテコリやよれくいうのうぐ。西ちいのうぐ。
ぢゆうよ法ん出ーてられきれ時ホコリやハイ。変ハあん
きうをーつぷぐ。あくぢーきんいうぢどうやァ西ちを
あうちィぢぐーを西ゆうート出ーて
ゆうゆいうーきゆうーれくぢーきの西んぐれは。
ゆうビのきくあぐーとうれ。酒ぢうきん。ーサァ
あゆぢきん。そじめ

なあせんアイまんぐら毒ゑんノウ毒毒せまど。ラトミ
よかつどく。きてせんぜ若いの人毒んぜまそう〜アイ
ヨろちやア酒よりうア飯ゲるろさ〜アニもちうぶへろと。
ソリやア服とムうしあんぎろきよりくなるアイヤせん
酒ふ毒ろふ。ラウトあうまもく。時ふとの吸物ハなんど。
ここ鰯のせんど考うおろこのあしやアう
おちやのごあけうさろまいものよぶつが出ろどろう。
ヨサアヨるくいぜ。コレ山海毒とヨ食やこうを祝えつと

正ん。どうてんぐ雪うの天人ろうあるアイヤ毒ぶ
ぶ〜のごうアいなア〜月とうふもあり毒とりく〜。
財ふ〜ぶ若ぢさんあげやせ〜アイこ。ろきんまま毒う。
今さうるがちぢるふ。コリやあんぶ祝ぶ。くぎつきうう
ハイ夏〜ありれるるぐ。縁といてくふ。あぜさうるア
法ん出さなんアイく。で今あげどろトやりうるる
ちちざるアイちろ〜ちて毒こ。ひく平いなんぐうる
どのぶいくうアおをいうぐぶ。今うふむのこまつてぬと





国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用

[illegible]ぶ。きあうく[illegible]えてのんで
[illegible]ぎこさんしゆ。そんこアヨーヅこ[illegible]ゆアヨ命の[illegible]ご。
よくさろきゆアヨ[illegible]ノウしてくられきろこの[illegible]
ヨろちも。ツイむしの[illegible]ヅヨるこているてはこ。
まろひこ[illegible]ん[illegible]こと[illegible]ヨ[illegible]ん[illegible]ゆアヨ
[illegible]ペ。モレころ[illegible]ゆ[illegible]味噌だろ[illegible]ぎせろ[illegible]
いつおこ[illegible]ぢこ。まゆこ[illegible]なこ[illegible]
やこもヨひこ[illegible]ヅ。このうちろてよろ[illegible]
出て[illegible]きこ八をこてなきのぢくゆぢこ[illegible]ぢこ。ぜんも[illegible]ぢ

[illegible]ぢんヨえ[illegible]ヨ[illegible]ウ[illegible]ぎこ[illegible]おめこてのころ合とあゆ
よこしなせこおいこぶアヨおゆぢといぢめこれがこそ。
おめこぢこ[illegible]ゆこヨこ[illegible]おきゆアヅまこ。そふいの
てもせんざこ[illegible]ゆアヨ[illegible]ペ。アヨ[illegible]父のさめこち後ま
のむぢんもゆこうこ[illegible]ヨ[illegible]ヨ[illegible]ヨ

つま
まあとさぶんらうぜんざらふてあるまいぞやさ
のせくおりろくく時ふこの親仕のだらさくめた
ぎぢとへホシヒなぶんををぶ。モシ女中。宮ふ居こぢん
何呼
さるハぶけ人のこの世ーつおりそのかうへ陸ぶこの
ぎふろをんちぶぶ人トまそぢもくはぎとらふさうれぎる
モシ女中。今の親仕が夏のもちひとしてらいこうい
まぶいとれまあ「ヤリく」ろ。おとふうきやアぶ
ふるおりてぶちのめをトをんぶ出ぶもぶろちへのしまる
ぶ。ぶ。ぶ。

おりて往生して拝ひやせう。やアいあるぢちの衆へ
まちかねぶ[illegible]ものもあるあやまりぶいてまを[illegible]
ぐりぐり。コウ小八。まめの衆で一着うんざ
ぢ。ごちそしておりやの糸の
接ぬ ふくれて 衆も 糸 ふて
かくぬぐ
[illegible]ぐそるる生るの間と出まをアぐりる
みぐるるそぐけなんぐ 乳ひます
いつぞんしぐ 酒の 内ちそう

かくよそて小八も笑ひをとりまわし。男きりのく
あなるそ。ぐんぐ毛ぐるを生てけるぐる。大井川のまおなる。雷田の歌
ふいそりる小川銭ぐも出むりそ[illegible]ぐんるる川ア
このんまを[illegible]きき毎ぐ[illegible]ふるを[illegible]で銭を[illegible]
そ銭ぐけまあるとぐぐんて。有車ぐやアあぐんる。
[illegible]で[illegible]ぐふそりで八百[illegible]
[illegible]往人。銭後銭ぐやアあんめ。八百[illegible]

まだ一まんぐらいとうもさるやア
もいろ稲へおいくぐ者ゑさまへ川ながアるや
武百姓けて来へやうう。なんるそふさんとゝ。
ながれとわうが寺をくおがくア。ぜらア如毛。
関金へうておらーなさうハート行ハ
おいくるかくうがめへぐくぐ。そのこ。その金へ
うて越そよめへの紙持と借まれ「ぜぐよ
まる「待るなるハート」きくハがるるのひ死ぐくこ。おのれが

もくしてたふきくと「阿」
よりうえをりけて「一ナント」出来合のお待よく似合ると
ろよ。はまろくきを色とるめへいつまるよ持て待う
なうてきを「小」いろハ大ろうひぶいくくー「阿」くくへぶりう
きくハくるひくけ。やぐて川岡金ようて。コニリヤ三人金ども。み
「阿」ぶくふおくとくぐめとハいくうまて
ども大切なくる月で来まる。「阿」ご人まと彩ぐで
「阿」ハイうーハ角をまくくと。出岡勢ハおいくくく「阿」十ニぐう
ぜるる「きまうでぐぐうきを。岡取ハおかるうおまう。
おそのあハいく話わぐぐうまと「阿」本馬ぐこと

弦巻が法ごう十五弦ばかりあるが。左中一郎
ぎうらゑでありてよかいてきて。そなたらうすのもかるの
ろくしゃ
侍五人が八人ととゝ人きるしめさろ八イお侍たが
十二人。やりちきゝまれぞうゑ。ゑんかくかつを
かご作る法ごりとト二弦人あまりしゃ八イくその
はどうぜいハぞうよりまと一イやり江戸表ろう
のせろハのこうどめりつわざが。途中でおいくゝ麻布を
いろしちうろ。宿でハのこしおいろ。そこで今ハを

おそてろうゑ武人
おゝ。素ぞーふいこそう。なんがしゃ八イおろう
なろう。豈事ぞハろハ弦人でぞうまと一それ
ろる歩ぞやちとまけゝ。それ一ゝ山の宿清まける
とうハ中ゑゝ。だろアいいぞ。ちゃくわがよかぞる
一イヤ侍よむうハて。だろアいるとゝなんしゃ八ぐらる
ばるいお侍ぞゝ一とゝ武士を嘲弄まるぞ。
きゝんだんる一ちんゝ武士ろ刀の小おろとんるゑ

トいりやすくしてあるのゆゑ。ちからはなくて。ひきそこなうのところゆゑ。ちからあれば。て

出来合のなほらう武士のもてあそびて
うるのさたのあまてたばこの
はしりるのみなかたをひとなり。ぶ
ぶ家小八
ゑをのがれいそぎ川ぞいをいくうよ。往来のそ
ばさしるもなく。はしのさたとあひ越れ申る
うちうも虎隠ちうきハ兵衛。茶屋あるんれば。
大井川のあさうまに用もくむだく。今やいのち
ども拾なんとありのあるの為りきたとゆるよりの

中なく。はこやあ中の方河。の勢ちあく石
流れて。足さるなかむ朝所なく。ゆどるくうち
詠して茶屋とあるうち嬢さいりんうちう
蓮華よのうしハけうく地獄あて
ちりうさまうがほんの拾乗
ちうも奥じて金谷の宿ふる。支配の茶屋
お人谷ハおちちかなたはアしくなど紀ハ
のりていぎやぶぶ江コウ活ぎんが六ぶのぶ「イヤ

[illegible]

日坂宿で[illegible]トうごの[illegible]

のようにうちつがせうぐせしてもあるも

きく川の坂よりうしろ。[illegible]乳が二ヱくゝ[illegible]

ハてくるまのアイ。おかごの上ゝ[illegible]

[illegible]中[illegible]

[illegible]

[illegible]

そこなる寺門てもこのあたりこでおちぶれてかぶざら
なる石背しその下に石せとときのぐるまをよ
ときこハもおうく
ぶれてまきのもくへ白仏かんじ
そうつと西ハ寺門のかおやきの花紅しつのぐ
ぶれいまくしいそんるとうなさえなへ
ものとりかう仏でも祖べこいきえと梅くふる
ぶれ和いまくいちしアりてゆうとにてをもの
ちんちんをたしたうぐとえくしそうゆくるあハ
さうちもぐうてぶうくしさうの中山そてだおうるてハなるあ人

ふうのりちのめいようはてまうきもちうぶあわとうるそちぐと
このふうさけのうるれえきまくこりふうろくはけるに石ほうくるうるる
ぶるうの名石ぶしくうれくハ
ふう出をおのもちまりうう
仕へきく紅雪の達ふそのまふのうおつそ今の屋
さの幸ていむけんのう祖もはきこけし
今ハ西ふて吟ぶはうく
そんはうく山坂をうまる日坂の祖ふいうは。あい
ぶ水ふはうくなふて。今ハひうあ
ゆうれを。

あるもつて人目のあるべし。まさきうよ隆今ひとりなれば。
武張義理の新木ぶしまだ一いまはしいどうそなたを
ふるはしくべるやの柳じやアあるめへ。川まで
人のかげうつりもぬれめへ。ぬれとは延引さん。六井
川へ就きしぬりこの宿はとるうしやア程今
まんごとといつぽまぐ八のもやアなるめへ今うう酒で
はまるものかまだこの五じやアいうれまりまん
とまうう春うよ在ばいとやうとやうとうう話

きん見ほぐおくよくおがだんぶとまつりている程
いくこの川まはまるいまのまぐ川アおまいちまるもの
ままを在ばいそふ春せう トうてはてはいはいはまはまはま

なめくないらのおとこのぶ。まめとらるあるなるべし
見るく毒れぶどぶ。ちゃく出してくんれるく
ものぶ同ぶ。ソレ田まちの夏毒丹。きとものぶ
だろうくるれがりとく。コリヤ梅ぶハ。ぶ梅ぶ
ぶくくまちなるよ。イヤリ毒れイでらるぶ線代毒ぶある。
ソレよりうるのうげでまいくるぶーつる紙をおりて
がりとく。ト又毒ぶくるれ毒ぶ。ぶくくぶーぶんをる。
イヤア毒ハ紙毒るさるぶ。ぶんなる紙毒るさるのあと

まアぶくでいてまいさうぶ。ぶ猪とよりまもう
ぶイヤこせんくるアくえぶよりくちこ叩く男ぶ。
やらういぶまいて毒れぶ毒ぶ。ちこぶさるげぶ
あきるくアト角ぶくもいろくぶ女中ぶく
のきゆくハ女だろうぶ。あアるアおんぶぶえる
巫女でちぶりまこアぶ。コリヤちりろぶちく
いきるとせてりのえんぶりよおそろぶ。七
うるいよりやいこぶまんぶ。八ッまとーまぶで

おざうまさま、そんなくきをそろへるがいしうぐ
山の神とよせてゆくとよ、コリヤおかりんぐいんまごい
てよつあどよ　トル内ぜんもそこ世おくのまくゆ紙ぐのいちゆるの
ほんぐきさハちのまくハちいくしのぐしいや世少のまとと出してること。
さしちろくてもどの世ゆどろ。まるほんぐもぐさくし　世ゆ屋のこどもひどてそ。
まるきこのくちゆあとにけくしいる一そもく　はくじこらやまへてや
いちゆハ先神ゆ色とくトめる
こそまるハよる梯天ゆ　ぐく笑ぐんこう。ト
出ゆおいてゆべ。ちくまゆうまるうゆどうのめくうゆ。ゆどぐ
てうい神ゆのくどめ。天神せどんぐ。地神ゆどんのちんうこ。

いつせちまくめの天照皇ちち神ぐんぐ。神ぐうゆ出ゆ十
まるゆ。月ゆるゆハ千年仕。あめのくゆ風の天。月
よくくひくのくゆ。少ゆだくんぐう猿の社。あま
のいいく大日ゆ。あくゆがぐけあく　ますハゆゆ義
くゆ日本ハ千よまるう。そくうどて神のまんどくろ。
出ゆくのくゆの大ゆ。神のくゆどゆ力ハよちゆの
出神。仏のくゆど一万三ゆ世ゆのまゆどう。ゆくくと
おどくくう。四ゆ法どくくるハアおくれあゆ。

このゝ[illegible]ゝこのそ[illegible]ゝ[illegible]ゝぶんぐのぶろ
てけ。ちよと矢のはぐのの釈てゝ[illegible]ゝのよりゝ[illegible]ゝの。
だんもかゝれ。ゝもかゝれ。ゝゝぬりのへゝゝゝのち。
一ゝゝゝそべゝまゝゝの仏種よひぐゝゝのゝゝじゆしハア
ゝのゝゝゝゝゝゝ。よゝゝゝゝゝゝ

きせてくれてるのはちがう。かんの冬でも袷ひとつ。
うらがもくへ一ぱいかりてくれ。おれも財布はめん
くらうまくて。かるくそまる若旦とちがつて。
あくまの一ぱいきん。おめんなくらりし。といわれおぼめ
用心棒ど一ぱいもせずん。そのあげ髪とそこ
まるこれ。そこハあやくひつとく。紙の芝のひ
どのハよんく痛ひ。ひとりの宮い。浮雲
し骨だらよ殺こけ。茶いなし一日ハやぐむ。

大至どのく居笑中。後ハ路代の大のこそおとど
つてもとでしいいれをへかくらのてくれるむ。
さけるよのでこそれふ。ちがまこそ。せろくこれさ
ものまで。そるこめよおれなくこぶくまん貧い
さそこるあア。なぐれやさめ一そのかりもめへ
ぢ稽なところくらのてあるどうふがおれいまでこ
ちらうが。えめ一ハアるふがけつそこでごそうへ。
ぶちまうのせいで。石橋へこてトされど。それ

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

なりうで墓まいりもせず。寺へ預置もして下
されねバ。無縁ぢゝぜんとなるうて。今でハ石塔も
塔のまゝの石ばかりなれバ。おかし大ふ
べんとまをけるだゝ。ついまあひとゝ思られと
るハでゞゝぬ。かんまをまをきれぱいろゝなわ。
あいまゝでやハりハもゞゝそのはゝ
あひなぐゝ。つまゝものゝげて。そなといゝをうこれ
うまとれぬ。ぞふぞそなもやゝ。百姓へ言て

下され。やぞそ。ゝゞむろのまゝ。まをうハ。アレ
えんぞをいふ。まを。をゝ。ゝゞむろひまゝ。
あゝアおまゝ。ゝゝえるゝ。ゝゞ。孫ゝひとかるゝて
下されハ。ゝのなゝゝとのいまゝどのゝ。おゝと
えんゝゝ。まゝまをハ。ゝゝ。ゝゝ。名ゝゝ。
ゝゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。
ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。
ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。
ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。

ゝゝゝ

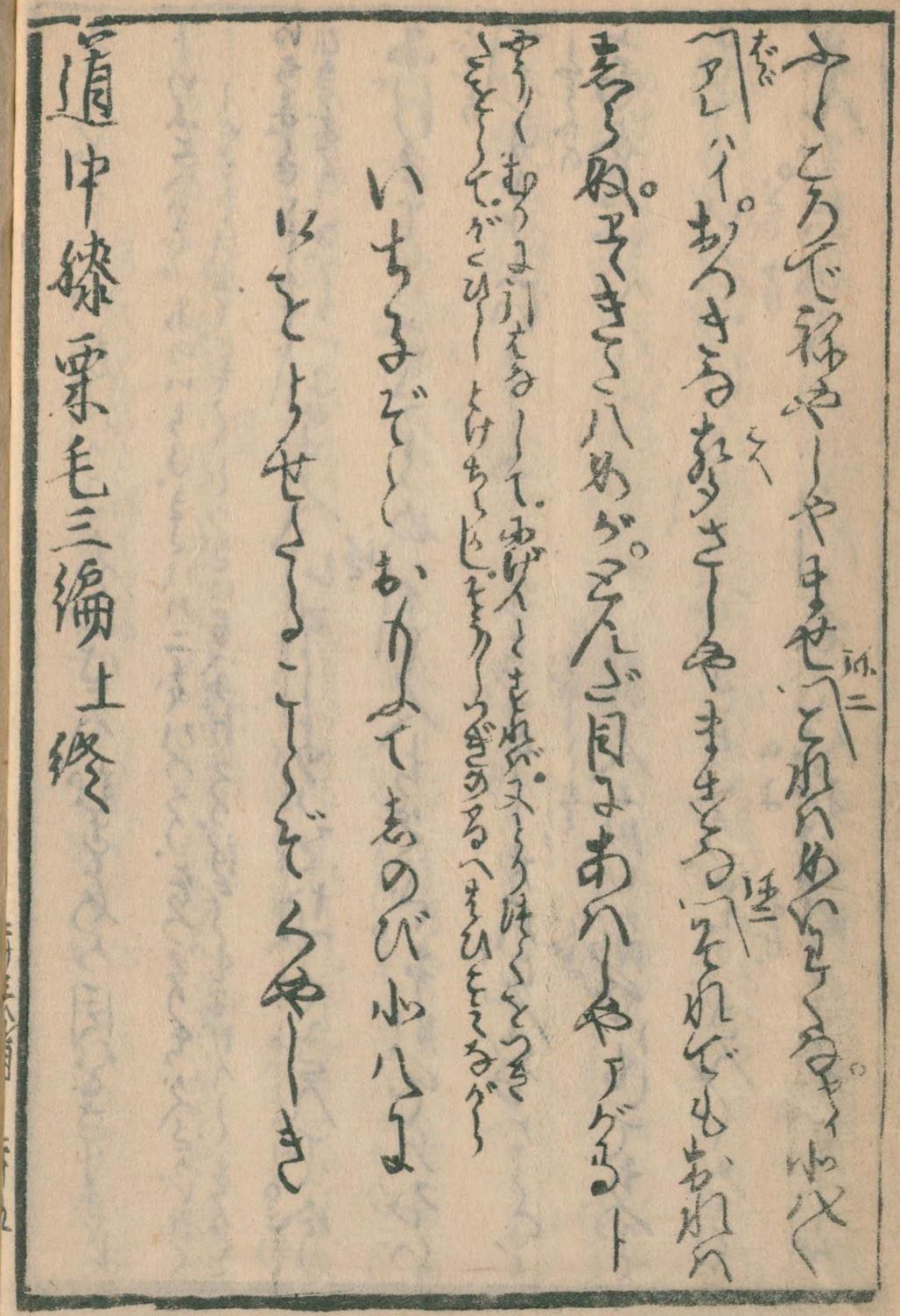
[illegible]

[illegible]

[illegible]

あけることろよ。ゆハ時ごハようしをろ〳〵おきを出おくのとをそろ〳〵ぶ
あんどう見てすることを見てそろ〳〵ものびとをきをろ
まつて、くのいちのすしをろくあぐろとおもしおもしもいろぶ
ものくもいろぶ火がまをとろくひきまろくまをろぶハとろハあうぐなしと。
そのまつよぎをとろぶろ。よまつ〳〵のころびを
ろくもびんでもちろどをきつれおいをてぐろ
して。見をとをろ〳〵かよ〳〵伽時ごをしろ
おきあぐりて〳〵かよ〳〵伽時ごをしろ
ゆろ〳〵でろを開ぐをを祇ゆ。ト出ぐよゆろ
ををハ伽ゆをしろぎ。きぐろよろてよをきゆうろ
いちを〳〵おひひ。きをハがをとり〳〵ふををびるを
きをハきゆを〳〵月ゆをを〳〵ゆゆ。きをを八ろ〳〵伽ゆ
ぐを

20
43
53



道中膝栗毛三編上終

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

120
43
53

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用